



**"friends"**

恋友だちがいつか  
びとにかわつた  
季陽ざしは眠つて  
はまつた  
季節は眠つていたのに  
| 小さい  
| パパとママ  
| 風によりそい

ヒビヤ  
みゆき座  
(591)  
5357

大11月13日(土)  
ロードショード

パラマウント映画  
Original Soundtrack Recording  
A Film by James Brolin  
"friends"

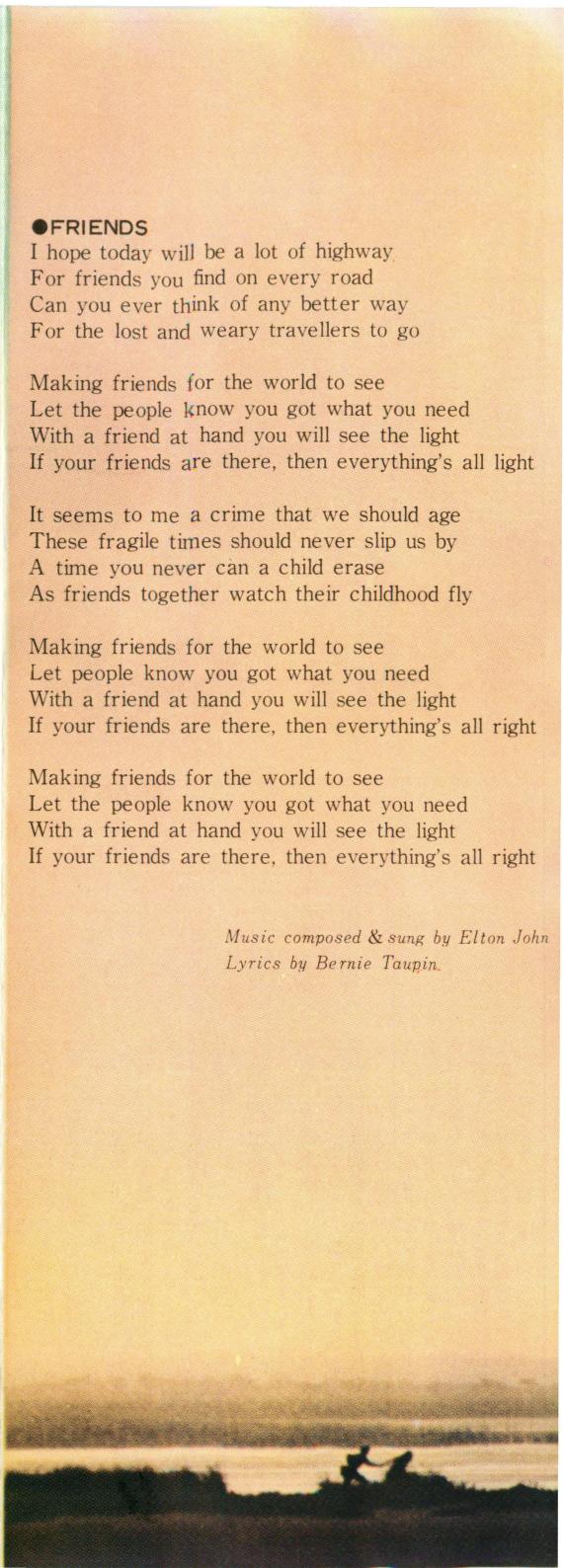
パラマウント映画 "フレンズ" 主題歌  
FRIENDS HONEY ROLL  
●エルトン・ジョン

STEREO FN-2801

パラマウント映画 "フレンズ" 主題歌  
ELTON JOHN  
●エルトン・ジョン

SWG-7512 VICTOR WORLD GROUP

STEREO FN-2801



## ■ストーリー

パリに来たミシェル。父親をなくして一人ぼっちになつた14才。たよつて来たいとこのアニーはぐうたら亭主とケンカばかり。住んでいたアルルの白い家がなつかしい。

パリに住んでるポール。15才。実業家の父親と大きな邸宅。やがて新しい母になる女性とその息子。ピアノに向つてモーツアルトを弾くその子が新しい弟だなんて!

ポールとミシェル。孤独な二人は動物園で知り合つた。

ポールはドライブで父のムスタングをこわした。どうせイヤなパリだもの、家を出よう、このままアルルへ行こう、と二人。

アルルは美しい。朝も昼も夜もミシェルの白い家は太陽で金色に染る。

日はすぎた。食物のない日が来た。

二人は寄りそつた。

「赤ちゃんが生まれるのよ」

「がんばるよ、ぼく」

力強くポールが答える。

寄りそつて《愛》の行為が空腹を助けた。

ポールは近くの農園にやとわれた。

朝早く家を出て夕方疲れて帰つて来る。

ある夜、ミシェルがささやく。

「赤ちゃんが生まれるのよ」

二人は寄りそつた。

「赤ちゃんが生まれるのよ」

「がんばるよ、ぼく」

力強くポールが答える。

出産の日。医師をはばかつて、二人は本を頼りに女の子を産んだ。ひたいの汗と元気なベ

ビーの泣き声に、小さなパパとママの誇りがあつた。

アルルの白い家には三人の家族がいる。三人だけがこの美しい世界の住人なのだ。

小さいキレイなママ。小さい働き者のパパ。もっと小さいかわいいベビー。

晴れた朝。パパが出かける。ママとベビーが見送る。三人は幸福だ。しかし幸福の時間が

その朝で終ることを、知らない――。

# フレンズ ポールとミシェル

## "friends"

### CAST

ショーン・バリー  
アニー・アルビナ

### STAFF

ルイス・ギルバート  
ルイス・ギルバート  
ルイス・ギルバート  
ジヤック・ラッセン  
バー・ノン・ディ・ワイン  
アンドレアス・ワイン  
エリト・ジョン

製作・監督 ルイス・ギルバート

Lewis Gilbert

佳作《アルフィー》で六五年のカンヌ映画祭審査員特別賞を受賞。《007は二度死ぬ》《冒険者》の成功で一流監督にのし上つた。

《フレンズ》は子役出身の経験を生かした演技指導が主役を適確に生かし、エリト・ジョン・ジョン。ロックシンガーのナンバー・ワンでユニークな自作の歌をリリックな暖かい声とギターで聞かせて、特筆すべき素晴らしい声である。

一九二〇年ロンドン生まれ。子役から助監督になり、教育映画で脚本・演出を担当、四七年マーゴット・フォンティーン主演の「バレリーナ」で正規の監督となるに至つた。今後にも期待は大きい。

作曲・歌 エルトン・ジョン

Elton John

ロック歌手として最高の人気を持つ彼は作曲家としてスタート。歌手に転向してこれほど輝かしい成功をおさめた例は他にないといわれている。イギリス出身だが爆発的な人気を得たのは、アメリカ公演からで、ハリウッドのクラブの公演では現在アメリカの人気ミュージシャンがずらりと席を占めて騒がれた。彼の唱法は現代の即興詩若者のうめきを伝えその声には19世紀の即興詩人の香りがあるとたえられている。

## ■解説

説

14才の孤児の少女。裕福だが心のふれあいの無い家庭に育つた15才の少年。その友情と清らかに結ばれる愛を風光明媚な南フランスのアルルに描いた香り高いロマン。

ティーン・エイジ・ラブは最近の映画の流行だが、この映画では、単に既成の大人社会との対比だけに終つてないところを見なればいけない。友情が愛に変り、ベビーの出産という常識的には大事件をサラリとうけとめる幼い純真な二人。今、流行の言葉でいう「原点への復帰」「原始への回帰」といったものへの直載的な問い合わせがなされている。美しいこの映画は、底に苦いものを秘めているから感動は深く、特にラストシーンの印象は言葉や文字であらわす事が不可能なほど心にしみる。

主演のショーン・バリー、アニー・アルビナはルイス・ギルバートの指導でこの大役を見事にはたした。撮影はアンドレアス・ワインディング。アルルの湖沼地帯を美しい色調でみせて、これだけでも一見の価値がある。音楽はエリト・ジョン・ジョン。ロックシンガーのナンバー・ワンでユニークな自作の歌をリリックな暖かい声とギターで聞かせて、特筆すべき素晴らしい声である。

